

学生相談室だより

2007年 10月号

楽しい夏休みが終わって後期の授業が始まりましたが、生活のリズムは戻ってきたでしょうか？さて、今月号では学生相談協力委員の片山美香先生をご紹介します。

学生相談協力委員の先生の紹介 —今年度から相談員になられた先生にお話を伺いました—

教育学部 片山美香先生

●先生の自己紹介をお願いします。

教育学部の片山美香です。山口県山口市の生まれで、大学を卒業するまでずっと地元に住んでいました。ずっと小学校の先生になろうと思っていたので山口大学教育学部の小学校教員養成課程に入りました。

山口大学は二年生から研究室に入れるんですが、1回生の時に受けた心理学の授業が面白かったし、子供が好きなので心理学の研究室に決めました。

広島県呉市の呉大学看護学部で7年間勤めた後、岡山大学へ来ました。現在は幼児心理学を担当していますが、大学時代に心理学を選んだのがきっかけで今に至ります。

●学生時代はどのように過ごされてきましたか？

大学ではスキー部に入っていました。小学校から高校まではスイミングスクールで毎日泳いでたんです。中学校の頃は勉強もほとんどせずに、試合に合わせてずっと練習していました。あの頃は毎日放課後に3000mくらい泳いでいましたね。でも、泳ぎすぎて体を壊してしまって高校1年の時に辞めました。

何で大学でスキー部に入ったかという、水泳はやめておこうと思っていたし、小さい頃からよくスキーに連れて行ってもらってなじみがあったからですね。一応筋トレやマラソンもしてましたけど、ほとんどお遊びのような部活でした。2回生になると授業が忙しくてあまり参加できなくなって、けっこう部活をサボりはじめて自然消滅・・・で辞めちゃいました(笑)。

2回生から研究室に入ったんですが、2回生から4回生まですごく仲良かったので、ゼミ室に入り浸っていました。2回生から心理学にどっぷりの生活でしたね。

3回生の時、付属の小学校へ教育実習に行きました。小さい子に興味があったので1年生のクラスに配属されました。実習は楽しくないことはなかったんだけど、教科の学習をするのはどうも合わないなあと感じましたね。それに全科目を教えないといけないでしょ？これはやっぱりきつかったです。

教育実習に行ってから、ちょっと迷いはじめましたね。社会科教材研究とか理科教材研究とか、算数科教材研究の先生なんかむちゃくちゃ厳しくて、みんな一発じゃ通らない。「何でこんな教科の勉強を、おもしろくないなあ」という思いが増していきました。それに、こんな全科目教えられるのかなという思いもあって。

ちょうどその頃、小学校に生活科というのが導入された時期で、担任の先生が「生活科の授業、誰かやってみないか？」と言われたので「ハイッ！」って手を挙げました。その生活科の授業で、透明のゴミ袋でお姫様のドレスや王子様の服を作ろうという企画をやったら、けっこう子供たちが乗ってくれたんですよ。子



供たちが教科から離れてニコニコ笑ってて、すごく自由な時間を過ごしたんですね。子供たちの様子が教科の時とは全然違って、いいなあって思ったんです。

4回生の時の実習では、地域の小学校の2年生を担当しました。その時、職員室の雰囲気になんか耐えられないってことに気づいたんです。先生の顔が、子供の前にいる時と職員室にいる時とですごく違って見えたんですね。先生も人間なんだなっていうか、もちろん子供の前では厳しいでしょ？ でも、職員室にいる時はけっこういい加減だったりだらしなかったり、現実がいろいろあるわけですよ(笑)。でも、また職員室を出る時は先生の顔して出て行く。その二重性がいたたまれないというか…。あと、子供の話をしていると親の育て方だとか家庭環境だとか、そういった話題になってしまって、そういうのがすごく苦しかった。

ある2年生の女の子で、いつも私にくっついてる子がいたんだけど、担任の先生に「その子に対してひいきしているんじゃないか」という指摘を受けたんです。子供を差別していると言われたことはすごくショックでしたね。私には「全体を見る」というのは向いてないなと感じて、小学校の先生はやめようと思いました。

ひいきしていると言われたことや、先生の表と裏を見たことで理想が崩れたような気がしましたね。小学校の先生になることは断念して、心理学をやろうと思いました。でも、私はすぐ気持ちがよそへ行くタイプで(笑)、今しかできないことは今やっておきたいと思ったので、会社の就職活動もして就職したんですよ。

それで地元のテレビ局に入ったんだけど、とにかく男女差が激しかった。今でこそ男女共同参画とか雇用機会均等とか言ってるけど…。私も正社員で入ったと思っていたのに期限付きの嘱託社員で、4～5年したら希望退職者を募るらしくて。こんなやつとれんわと思ってさっさと辞めました(笑)。だって、せっかく訓練を受けても4～5年で打ち止めなんて役に立たない。私は一生仕事がしたいと思っていたし、一生何かを継続していくことで上達したり深まったりするのが理想だったので。

辞める時には親に猛反対されました。特に父とは初めてっていうくらいの大ゲンカをしたけど、父の許しを請わないまま、さっさと辞表を出しました。その後どうしようかなあと考えた時に、そういえば心理学がおもしろかったし、いつかまた勉強できたらいいなと何となく思っていたので、広島大学の大学院に進学しました。小学校の実習がけっこうトラウマになっていたんで(笑)、今度は幼児の講座を選びました。それで今につながったという感じですね。

●大学院生の頃から心理職に就きたいと思われていたんですか？

2回目の教育実習に行った時の、私にくっついてきた女の子のことが鮮烈に残ってたんです。私はひいきしたつもりはなかったけど先生にはそう見られた。じゃあ、あの子は何でくっついてきたのか？ そういうのに興味があって修士過程では仲間入りできにくい子の研究をしていました。

M1の時、初めて不登校のお子さんが集まるキャンプに参加しました。自閉症のお子さんのキャンプとかも参加しました。そういうのに行き始めて臨床に興味を持ちました。

修士課程を修了した後、小児科で研修をしながら大学付属の施設で非常勤教務員をしていました。その3年間で臨床経験を積んだ後、臨床心理士の資格を取りました。

●大学時代は勉強だけではなく、遊びもよくされてたんですか(笑)？

むちゃくちゃ遊んでましたね。授業をこっそりサボったこともあったし(笑)。4回生が採用試験の息抜きをしたって言うと、すぐついて行ったりして。土日にみんなで飲みに行ったり、海に行ったり。研究室の先生とのつながりも強かったですね。ゼミごとの飲み会が夏と冬に必ずあったり、研究室の学生と先生とでサマーキャンプをしたり。先生もテントと一緒に寝るんですよ。そういったことが研究室の活性化につながっていました。先輩たちだけじゃなくて、先生も恋愛の相談に乗ってくださってましたね(笑)。

●先生との距離が近い学生生活を送られていたんですね。

そうですね。そういう意味では今の学生さんたちはすごく真面目だなと思いますね。まあ今は寄って触って飲んだり騒いだりしなくても、携帯もあるしメールもあるし、そういったコミュニケーションツールがず

いぶん違うんだと思います。でも、私のところの学生さんはたまたま飲み会好きなので、いろいろ計画を立ててくれます。ただ、みんな授業をフルで詰めてよく勉強するし、教員免許も多い子は4つも取るので忙しそうですね。



●学生時代にはどんな悩みがありましたか？

進路は悩みましたね。それまで親に反抗することはあんまりなかったんだけど、進路に関しては特に父親に反抗しましたね。

悩みごとの相談は友達や先輩に話をして解決していました。恋愛のこともあったし、あとはやっぱり進路のことかな。直接話すということをすごくいっぱいしたと思いますね。私は気持ちが揺らぐタイプだから、友達に「フラフラするな」「落ち着いて考えろ」って叱られたこともありました(笑)。

●では、岡大生の印象はいかがですか？

すごく真面目ですね。みんなすごくよく勉強されてると思います。自主的にゼミ室に来て勉強したり、夏休みも毎日朝から夜まで来て採用試験の勉強をしたり。私の学生時代とは違う(笑)。そういうのを見るとすごく頼もしいですね。

でも、勉強も大切だけどしっかり遊んでほしいなと思いますね。もちろんサボれとは言っていないですよ。でも、遊ぶ時間もしっかり作ってほしいなと思います。就職したらちょっとは裕福になるけど、時間がないし友達とも時間が合わない。学生さんでもバイトやサークルで忙しいと思うけど、やっぱり今が一番集まりやすいし、とことん語り合いたいと思う時期でもあるでしょ。

社会に出るとほんとに生活のリズムが違ってくるから、共通する場所に来るってことがまずないでしょ？同じ場に来れば、特に話せなくても顔を見ればわかるっていうのがあるよね。でも、生活区域が変わってくると相手がどんな体験をしているかがわかりにくくなる。すると、都合を合わせるにも遠慮が出てくるし、友達の話もすべてはわかりきれないんですよ。だから無責任なことは言えないなと思って、あんまり踏み込まなくなります。物理的にも心理的にもある程度の距離が出てくる。まあそれが大人になるということかも知れないんだけど、学生の時とは質も量も関わり方が違うなと思います。

今でこそメールがあるけど、私たちは会わないと語れなかったから、どっちかが足を運んで行って顔を見ながら話をする。そこが今の学生さんと私たちの時代とでは、友達との関わり方が違うなって感じがしますね。今は便利な反面、どこまで相手との距離が縮まっているのかなとも思いますね。

羽目はずすというか、失敗してわかることってありますよね。なので、うまくルールと折り合いをつけながら、常識・理念を持ってできるだけ自由に過ごしてほしいと思いますね。自由を与えられるからこそやりたいことも出てくる。失敗もあるけど。安全志向が強いのもいいけど、生き生きと躍動する感じがある学生さんにもっと出会いたいなと思います。ぜひ自由を謳歌してほしいと思っています。

●学生のみなさんにメッセージをお願いします。

学生相談室に来られる学生さんに対しては、まず「よく来てくれたね」と言いたいです。その一步を踏み出すまでには一人で悩んだ時間もあっただろうし、つらい思いもしただろうと思います。でも、その一步を踏み出したことによって何か先が見えてくる感じがする。学生相談室を訪ねたってことは、既にその時点で、自力で次のドアを開けたってことですよ。だから、そこに行けた自分に自信を持ってほしい。

その後もきっと人に頼ることがあるだろうし、困ったことを打ち明ける勇気もいるだろうけど、今まで一人で苦しい思いをして闘ってきたんだから、今度は少し人に甘えてもいいんじゃないかな。意外に人は捨てたものじゃないし、自分一人じゃないから、今度は人の力を借りるということをしてもいいんじゃないかなと思います。

私ももっといろんな学生さんと話をしてみたいので、みなさん気軽に声をかけてくださいね。

片山先生、ありがとうございました！

●学生相談室からのお知らせ●

「充実した学生生活を送るためのセミナー」を 開催します

これは、試験で緊張しやすい人や、面接で緊張しやすい人のためのリラックス講座です。

「不安やイライラが強い」「緊張が高い」「ストレスが多い」「人前での発表が苦手」などで困っている人も、今後の就職活動に向けて身につけておきたい人も、あがり対処法としてリラックス法を体験してみませんか？

第1回 充実した学生生活を送るためのセミナー〈あがり対処法を身に付けよう！〉

期日：平成19年10月17日（水）

時間：14：30～16：00

場所：一般教育棟D棟6階 会議室

定員：30名程度

★当日は楽な服装で来てください。

★参加費は無料ですが、定員に達したら締め切る場合もあります。

★参加希望の方は、申し込み用紙を学生相談室まで提出してください。

申し込み用紙は下記の場所に用意しています。

- ・D棟1階の学生相談室受付
- ・D棟4階の学生相談室
- ・大学会館1階の何でも相談窓口

また、学生相談室ホームページからもダウンロードできます。

★詳細は、学生相談室までお問い合わせください(連絡先は下記)。

★予告：次回は10/31(水)に「対人関係能力を高めよう」を実施します。就職活動の面接や、友達づくりにも活かされます。



★ご案内(津島地区)★

受付場所：一般教育棟D新棟1階

受付時間：月～金 10:30～12:30 14:00～17:00

TEL:086-251-7169(受付) 086-251-7184(カウンセラー直通)

mail: nayami@cc.okayama-u.ac.jp (◎は@に置き換えてください。)

学生相談室だよりは岡山大学の公式ホームページでも閲覧することができます。

岡山大学公式HP→在学生の皆様→困ったときの相談窓口→学生相談室

URL <http://kymx.adm.okayama-u.ac.jp/hp/soudan/index.html>